

I 愛知県の新生児医療システムの推移について

小 久 保 幸 雄
清 水 國 樹

愛知県における新生児医療システムは、昭和 55 年 10 月にスタートし、現在 30 施設の新生児医療応需病院と情報センターとの間に専用回線がひかれており、発足時より 1 施設増加している。

この間、今日迄県下 10 施設に NICU 機器とバッテリー式搬送用保育器の県費補助を、2 施設に対しては、地域性を考慮してバッテリー式搬送用保育器のみの補助を、1 施設に対しては、新生児医療機器の特別補助を行った。

結 果

システム発足以来の情報取扱総件数は、昭和 58 年 1 月末現在 301 件で、月別の案内件数を図 1 に示す。56 年は年間 158 件、57 年は 105 件と、57 年は 56 年に比し、総件数は減少している。このうち 116 件は搬送用保育器を用いて搬送されている。

地域別案内件数を表 1 に示す。大都会である名古屋で 266 件と多く、豊橋を中心とした東三河地域では、発足以来案内件数は 0 で、一昨年の発足当時と様子は変わっていない。

問い合わせ機関を地域別にみると、表 2 に示すごとくで、産科診療所からが 133 件、病院からが 123 件、残り 34 件は助産所からである。

地域別案内所要時間をみると、表 3 に示すごとく、10 分以内が 117 件、10 ～ 20 分が 111 件、20 分以上が 62 件といった状況であるが、数は少ないが地域的なこともあり、尾張・西三河で所要時間が長い傾向にある。

出生時体重別件数を表 4 に示すが、体重の記載もれがあり、総計 286 件についての結果で、1,000 g 以下の児は約 6 %、2,500 g 以上の児が 24 % である。

表 5 に症状別件数を示すが、複数の症状をもつものは、そのまま記載した。低出生体重児では、無

症状が多く、好ましいことであると思う。

考 察

昭和 56 年の愛知県の出生数は、84,563 人で、NICU 的対応が必要な児が 1 % としても、このシステムでの案内件数ははるかに少い。

このシステムを経過しない私的なレベルでの対応がより大きな比重を占めていることになる。しかし、このシステムが発足したことにより、異常新生児を送りこむ側の産科医療機関、受ける側の医療機関の新生児医療に対する認識の高揚、医療対応の改善等があり、案内件数だけでは計りきれない新生児医療におけるよりよき県全体の動きがあったことと思われる。

新生児医療機器に対する県の補助といった点もあったかと思うが、このシステムが発足する前の昭和 54 年と発足後の 56 年における NICU 病床数をみると、39 床から 54 床に増加している。

これを地域別にみると、図 2・図 3 に示すごとくである。比較のために、NICU 1 床に対する出生児数でみると、54 年の県平均の NICU 1 床に対する出生児数は、2,336 人で、地域別には、名古屋が 1,696 人、尾張が 2,586 人、西三河が 4,754 人、東三河が 1,926 人と大きな地域差をみると共に、特に西三河の NICU 病床の少いことがわかる。(図 2)

これに比し、56 年においては NICU 病床は 54 床となり、県平均の NICU 病床 1 床に対する出生児数は 1,566 人と減少した。地域別にみると名古屋は 1,238 人、尾張は 1,893 人、西三河は 1,791 人、東三河は 1,522 人といずれの地域においても、NICU 病床の増加に伴い、NICU 病床 1 床に対する出生児数は減じている。そして、特に西三河の改善が著しく、地域格差が少なくなっ

ている。

もう一つの指標として、新生児死亡率についてみると、県の値は54年の出生千対4.3から56年3.7に減じている。これは国の値が5.2から4.7に減じたのに比し、改善が著しく有意な低下である。

これを地域別にみると、54年において、名古屋3.5・尾張4.2・西三河5.6・東三河4.7とかなりの格差がみられるが、56年には、名古屋3.6・尾張4.0・西三河3.4・東三河3.5となり、名古屋は有意に低値であるものの54年に比し、やや悪くなっている他はすべて改善されている。(図4)特に、西三河・東三河の改善が大きく、西三河は有意に低値を示した。したがって、地域差が小さくなってきている。この改善は先にも述べたごとく、各地域、特に西三河における新生児医療への地域的とりくみの結果であろうと思う。この改善が本物かどうか今後の動向をみつめてゆきたい。

さらに、名古屋地域が低値ながらやや悪くなっているのは、現時点における新生児死亡の通減の限界なのであろうか、57年度における各地域の動きが注目される。

図4 新生児死亡率

出生千対率

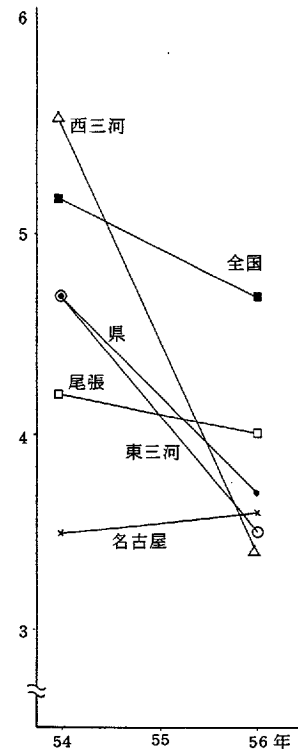
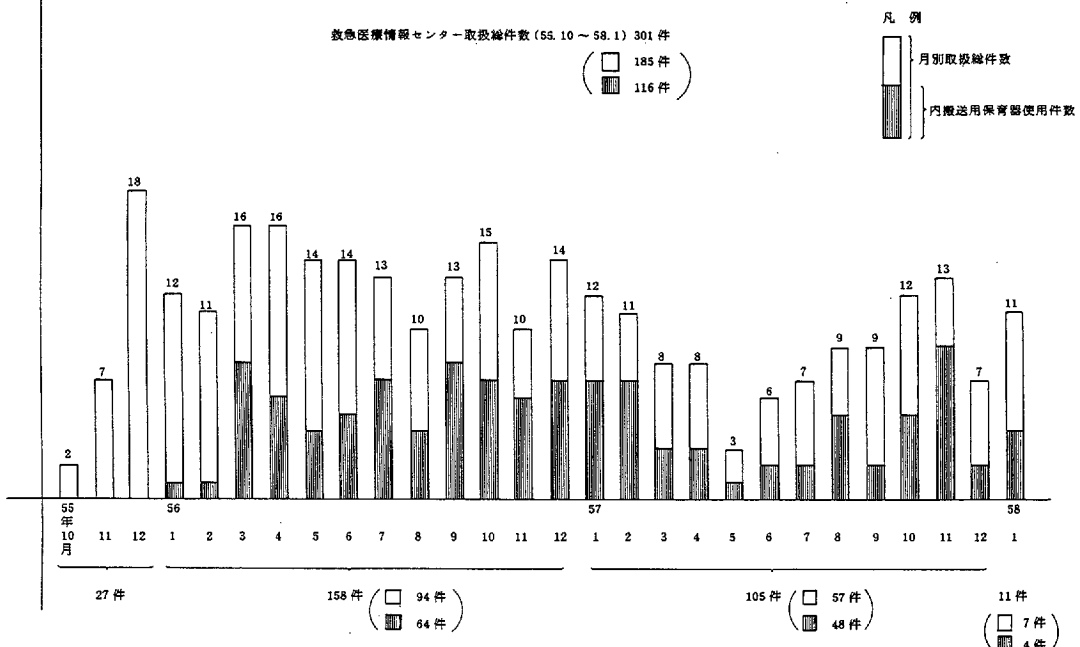


図1 新生児医療システム月別案内状況



新生児医療システム取扱い状況（S.57.1.1～57.12.31）

表1 地域別案内件数

		依 頼 医 療 機 関 所 在 地				
		計	名古屋	尾 張	西三河	東三河
収 容 医 療 機 関 在 地	計	105	99	3	3	—
	名古屋	100	98	2	—	—
	尾 張	2	1	1	—	—
	西三河	3	—	—	3	—
	東三河	—	—	—	—	—

表2 地域別問い合わせ機関

		問 い 合 せ 機 関 別			
		計	病 院	診 療 所	助産所
地 域 別	計	105	47	46	12
	名古屋	100	44	44	12
	尾 張	2	—	2	—
	西三河	3	3	—	—
	東三河	—	—	—	—

表3 地域別案内所要時間

		案 内 所 要 時 間			
		計	～10分以内	10～20分	20分以上
収 容 医 療 機 関 在 地	計	105	54	41	10
	名古屋	100	51	40	9
	尾 張	2	1	—	1
	西三河	3	2	1	—
	東三河	—	—	—	—

表4 出生別件数

		出 生 時 体 重				
		計	1,000g以下	1,001～1,500	1,501～2,500	2,500 以上
収 容 医 療 機 関 在 地	計	101	7	23	49	22
	名古屋	96	7	22	46	21
	尾 張	2	—	—	1	1
	西三河	3	—	1	2	—
	東三河	—	—	—	—	—

表5 症状別件数

低 出 生 体 重 児		成 熟 児	
無 症 状	21 #	吐 血	— #
黄 疸	—	黄 疸	2
apgar 6 以下	15	仮 死	6
け い れ ん	2	け い れ ん	1
チ ア ノ ー ゼ	27	チ ア ノ ー ゼ	6
apnea	—	apnea	—
呻 吟	2	呻 吟	2
呼 吸 障 害	14	呼 吸 困 難	9
骨 盤 位	—	嘔 吐	1
へその緒が短い	—	奇 形 (頭)	—
嘔 吐	—	心 音 不 整	—
仮 死	2	apgar 6 以下	8
		無 症 状	3

図2 地区別—人口、出生数、NICUベット(昭和54年)

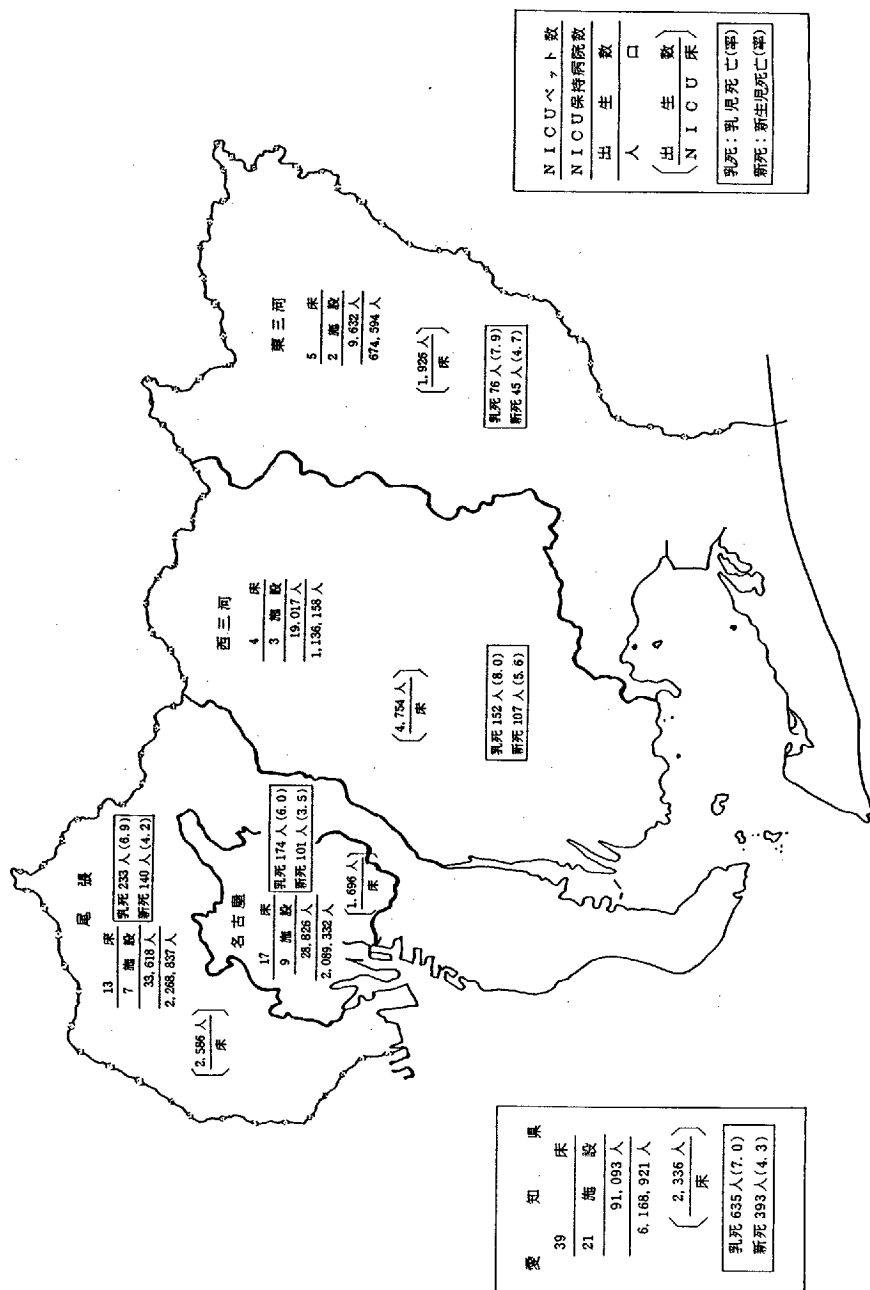
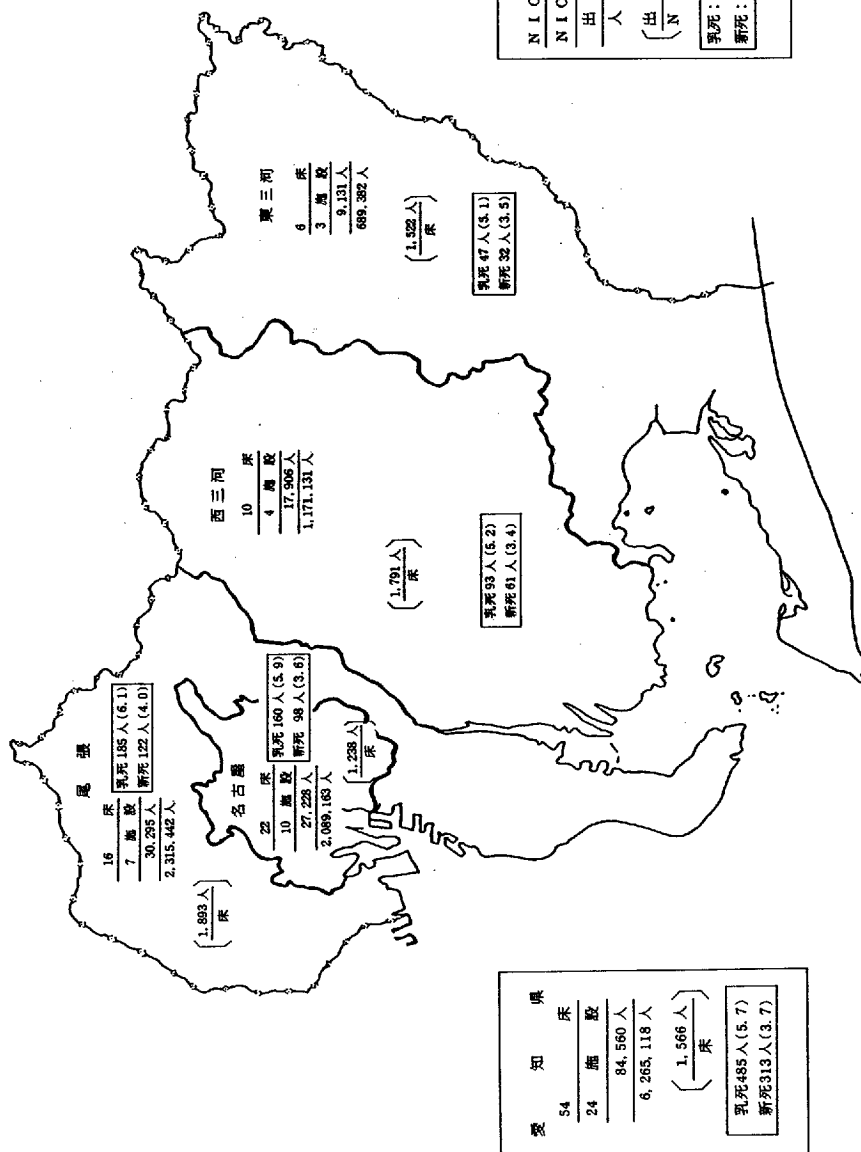


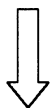
図3 地区別——人口、出生数、NICUベット数（昭和56年）





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



愛知県における新生児医療システムは、昭和 55 年 10 月にスタートし、現在 30 施設の新生児医療応需病院と情報センターとの間に専用回線がひかれており、発足時より 1 施設増加している。

この間、今日迄県下 10 施設に NICU 機器とバッテリー式搬送用保育器の県費補助を、2 施設に対しては、地域性を考慮してバッテリー式搬送用保育器のみの補助を、1 施設に対しては、新生児医療機器の特別補助を行った。